「今のメンバーでSAY-LAの黄金期を作る」と、SAY-LAのワンマン公演で藤沢泉美が宣言。いつかの日本武道館公演へ向け、SAY-LAはふたたび黄金時代を作りだす。

10月29日(木) 、SAY-LAが新体制としては初となるワンマン公演「SAY-LA autumn one man 2020」を渋谷WWWで開催した。この日のワンマンライブは、コロナ禍で2度の延期を重ね、ようやく実現した経緯がある。制限された状況とはいえ、チケットはソールドアウトを記録。当日の模様を、以下へ記したい。

胸をときめかす「感情リバーシブル」のSEに誘われ、6人が舞台へ登場。ライブの幕開けを飾ったのが、「MARIA」。彼女たちはキラキラ輝きを放つ楽曲に乗せ、澄み渡る歌声で「もっと感じてたい
もっと続くように」と歌いながら、素敵な出会いが生まれる期待を示してゆく。清楚な歌声や仕種の中へ、気持ち騒がす明るい色を挿してゆく彼女たち。SAY-LAの爽やかなステージングに触れ、早くも心が疼きだす。
会場中に元気を振りまくように歌ったのが、「胸熱アンドロメダ」。この空間を、6人は無限の輝きを放つ場へと塗り替えてゆく。大好きな人のことを想うたびに高まる胸の内を、彼女たちは「愛おしすぎて胸が熱いよ」と力強く歌いながら、触れた人たちの心を胸熱でポジティブな気持ちへ導いていった。

「今日はここを渋谷で一番熱い場所にしましょう」と、元気に宣言。この日を思いきり楽しもうという気持ちが、メンバーたちの言葉からも伝わってきた。この日よりSAY-LAは、新衣装姿。格好良さと可愛らしさをミックスした衣装も目を惹く。

次のブロックは、みんなで飛び跳ねながら沸き立つ想いを分かち合った「恋する君に恋してる」から。膨らみ続ける片思いの恋心を、6人は躍動するダンスポップナンバーに乗せ力強く歌っていた。切ない歌詞だけど曲調がカラフルなように、フロア中の人たちが気持ち弾むビートに身を預け、拳やサイリウムの光をずっと揺らしていた。
「今日を最高の日にしよう」と、SAY-LAは胸にときめきを与える「3000年に一度のハピネス」を歌いだした。キラキラとした輝きを、心の奥へ奥へと注ぎ込む楽曲だ。舞台上の6人は、この場で出会えた喜びを分かち合うように「3000年に一度のハピネスを感じよう」と歌いかける。観客たちも彼女たちと触れ合えていることへ幸せを感じていたのか、にやついた顔で楽しんでいた。「ラララ」と歌う6人の歌声に合わせ、フロア中で大きく揺れ動くカラフルな光の波のなんて美しかったことか。
少しセンチメンタルな香りも匂わせながら、咲山しほ、七聖真祐、藤沢泉美、星奈さなの順番で、素直になれない心の内を零すように歌を いでゆく。バラード曲「ごめんなさい」のサビ歌を6人

が声を合わせ「ごめんなさい」と歌うたびに、なぜか切なさが込み上げてきた。後悔覚える心模様を切々と歌う声に、何時しか気持ちが蒼く染まっていた。

MCでは、コロナ禍以降からの日々を振り返るように語っていた。中でも新曲の「感情リバーシブル」を通した濃い毎日について、新加入した3人のメンバーが想い出話をいろいろ語れば、リリース期間中に松屋で「感情リバーシブル」が流れていたことから、メンバーそれぞれ密かに松屋へ足を運んでいたことも発覚していた。

次のブロックで披露したのが、「感情リバーシブル」。爽やかな初夏の風を運ぶ曲調に触発され、身体が騒ぎだす。舞台の上で華麗に歌い躍る6人に向け、フロア中から熱い手拍子が起きれば、カラフルなサイリウムの光が上に上にと大きく揺れ動いていた。彼女たちも、この会場へときめく恋心を呼び込むように、晴れた歌声で「君だけが大好き」と力強く歌っていた。落ちサビ最後の星奈さなの「ごめんね」のセリフも、胸をドキッと騒がせた。

「次はSAY-
LAの美味しい楽曲でメドレーを披露したいと思います」(藤沢泉美)の言葉を受けて届けたのが、SAY-
LA史上初となるパスタソングメドレー。初めて恋を知ったときの盲目な心模様を、6人は「初恋カルボナーラ」に乗せ、ときめきをつかむように輝く表情で歌っていた。続く、情熱ラテン系ダンス曲「ガチ恋ペペロンチーノ」では、メラメラと沸き立つ恋の炎を燃やすように熱情したステージングを見せながら熱唱。最後はジャジーな「黒歴史イカスミパスタ」を通し、跳ねた演奏に躍動したダンスを重ね合わせ、大人の色気も醸しながら6人はせまっていた。笑顔を抑え、凛々しい表情で歌う姿をずっと凝視していたかった。

MCの中、沙藤まなかは「「黒歴史イカスミパスタ」を歌ったことがきっかけで、初めてイカスミパスタを食べたことを語りだす。今後も、パスタシリーズが生まれそうな予感から、沙藤まなかが「食べたことないけど、次はアラビアータの曲を歌いたい」と語れば、咲山しほは「ジェノベーゼ」と答えながら、自粛期間中に育てたバジルを使って、実際にジェノベーゼを作って食べていたことも報告してくれた。

ライブも終盤へ。メンバーがタオルを手に歌ったのが「YES,肯定ペンギン」。冒頭からメンバーたちの振り回すタオルの動きに合わせ、観客たちもタオルを回し出す。6人の力強い「YES」の掛け声に合わせ、フロア中からタオルや拳、サイリウムの光が突き上がれば、胸騒がせるポップチューンに合わせ、大勢の人たちがペンギンのようにその場でピョコピョコ身体を動かし、一緒に心の翼をはためかせ、たくさんの仲間たちと共にこの瞬間を思いきり楽しんでいた。わくわくが本当に止まらない!!
楽しさが加速するのに合わせ、胸のドキドキも膨らみ続ける。次は、「愛呼吸」だ。愛らしい歌声で、6人は「大好きだよ
大好きだよ」と想いを届けてきた。彼女たちは胸踊らせる楽曲の上で、「愛してるよ」と力強く歌声を響かせる。6人の汚れなき真っ直ぐな想いに触れ、何時しか胸も色づいていた。
次は、「僕らは心で繋がっている」と歌った「WE ARE ALL ONE」(SAY-LA
Version)だ。今もまだまだ制限されたライブ環境だ。だからこそ、自粛期間中に生まれたこの歌に込めた想いへ触れるたび、今も胸が熱くなる。彼女たちは歌いかける、「離れてても会えなくても 気持ちはひとつだよ
僕らは心で繋がってる」と。今はこうやって目の前で6人に会えている。でも、まだまだお互いの間にはルールといういろんな壁がある。それを壊すのではなく、守りながらお互いを求めあっているからこそ、今でもこの歌がいろんなことに気付かせてくれる。彼女たちは元気な歌声に触れていると、僕らの心まで元気に色づいてゆく。

SAY-LAが最後に届けたのが、むちゃくちゃ胸を騒がせる「I LOVE
YOU」。本当なら声を上げ、彼女たちと一緒に騒ぎたい。たとえ制限された環境であろうと、観客たちはその場で大きく身体を揺らし、拳を振り上げ、心の声を張り上げていた。メンバーたちも胸に手を当て、愛おしい想いを輝いた歌声に乗せて伝えてゆく。落ちサビを沙藤まなかと藤沢泉美が歌を繋げば、大サビをみんなで力強く歌う姿に触れ、胸がずっと騒ぎ続けていた。歌詞の一節ではないが、「I LOVE YOU」へ触れるたび、「キミの声
キミの笑顔を独り占めにしたい」気持ちにしてくれるのが、すごく嬉しいじゃない。

アンコールは、ふたたび会場中へキラキラした輝きを振りまくように「こじらせ片想い」からスタート。甘えたそぶりで愛らしく歌う姿に、LOVEな想いがどんどん膨らんでゆく。「君が好きです」の歌声に向け、何度「俺もー!!」と心の声を張り上げたことか。わくわくが止まらない。いや、胸をわちゃわちゃ騒がせるこのときめきをもっともっと膨らませ続けたい。嬉しすぎて、楽しすぎて壊れそうなこの想い、思いきりこじらせてしまいたい。

ここで、メンバー一人一人が今日の感想を述べだした。
「2月までわたしは普通に仕事をしていたように、道を変えるのはすごく勇気がいることだったけど。大好きなSAY-
LAの先輩方とこうやって一緒のステージに立てていることや、こうやってライブができていることが幸せだなと、今日改めて感じました。これからも成長していくのでよろしくお願いします」(加藤まい)
「わたしは言葉で伝えることが苦手ですけど、それを克服して、歌やパフォーマンスでたくさんの人の心を動かせけるようになりたいです。この活動は楽しいことばかりではないけど、みんなと力を合わせて、もっとたくさんの夢を叶えられるように頑張るので、応援よろしくお願いします」(七聖真祐)
「何時も綺麗なサイリウムを振って応援してくれて、本当にありがとうございます。その綺麗な光に何回元気をもらったか、何回ありがとうを言えばいいか本当にわかりません。まだまだ未熟な面もたくさんあるし、歌や技術も磨きたいし、海外遠征とかやりたいことがたくさんあるので、これからも頑張っていきたいです」(星奈さな)
「つらいことがあっても、SAY-
LAでいれるからわたしは笑顔でいれるんだなと本当に感じています。SAY-
LAのメンバーになって3年目、何時の間にか先輩として後輩を引っ張っていかなきゃならない立場になっていました。正直、自分の中にはたくさんの課題があるように、自信満々で引っ張っていける存在とはまだ言えないですけど。つねに向上心を忘れずに、SAY-
LAのために、今に全力を注ぎ込んで、SAY-
LAをもっともっとみんなに愛されるグループにしていきたいなと思います」(沙藤まなか)
「わたしは今月でSAY-
LAに入って2周年を迎えました。同じことを続けることの難しさとか、その先に結果があるとは限らないことへ不安を感じることもあるけど。こうして今もここに立っていれるのは、自分の中でしっかりとした目標があること。何よりも、このメンバー、スタッフさん、ファンの方がいてくれるおかげだと思っています。本当に感謝しても感謝しきれないです。私たちにはまだまだやりたいことがあるし、叶えたい夢がたくさんあるので、これからもこの6人で前へ進み続けます」(咲山しほ)
「日本武道館宣言をしたときのメンバーが、わたしだけになってしまいました。でも、日本武道館宣言を聞いて入ってきて、今こうしてここに立って頑張っているメンバーと、裏で支えてくれているスタッフのみなさん、どんなSAY-
LAになってもついてきてくれるファンのみなさん、そんな優しい方に恵まれているから、わたしは今もこうして頑張れています。わたしはこれからも歴史あるSAY-
LAを守りながら、さらに進化させます。これからはわたしが引っ張りながら、SAY-

LAを夢に向かってしっかり続けられるグループにしていきます。これからもずっとSAY-LAについてきてください」(藤沢泉美)

「日本武道館宣言をしてから2年半経ちました。来年が約束の期限ですけど、正直難しいと思います。でも、わたしたちはずっと頑張って前を向いて、ずっと走り続けるように、心を込めてこの曲を送ります」(藤沢泉美)。ファンたちの前で誓った約束を何時か必ず果たすことを、今のメンバーたちで誓うように、SAY-LAは「三年後の約束」を歌いだした。夢が本当に叶うかは、正直わからない。でも、あきらめない限り夢が消えることはない。この歌を初めて披露したのはもう2年半前になる。あの頃にいたメンバーは、今は藤沢泉美しかいない。でもその武道館宣言を知った上で加入してきた現メンバー全員がその目標を共有している。だったらここで、この6人で改めて日本武道館に立つことを宣言すればいい。そのステージに立つという夢の灯が消えない限りは、この歌に込めた想いを約束し続けると彼女たちは歌っていた。
キラキラとした最高の笑顔を浮かべ、「明日世界が終わっても自分らしくいたい」「前へ進もう」と言葉を投げかけながら、最後に６人は「BELIEVE」を力強く歌いだした。彼女たち自身が輝く世界へ導く光となり、「いつでも心に輝き持って 自分の居場所を探していこう」と歌う。SAY-LA自身が僕らの道標となって輝きを降り注いでくれるなら、その輝きをつかむことを信じて、これからも彼女たちと共に「未来に向かって踏み出していこう」じゃないか。歌い終わり、藤沢泉美はこう宣言した。「今のメンバーでSAY-LAの黄金期を作る」と。頼もしいその言葉を、今は信じてついていこう。

最後にお知らせを。2021年1月4日 、TSUTAYA O-EASTでSAY-LAの新春ワンマン公演が決定した。2月には、過去数本のワンマン公演の模様を収録したLIVE DVD-BOXの発売も決まった。ふたたび、何時か叶えたい日本武道館公演へ向けて走り出したSAY-LA。その道の上を、あなたも一緒に走らないか?!

PHOTO:本間裕介
TEXT:長澤智典

★インフォメーション★

2021年1月4日 渋谷O-EASTにて、ワンマンライブ開催決定！！

2021年2月 SAY-LAライブDVD BOX発売決定！
今回行われたワンマンライブ映像の他、過去数回のワンマンライブ映像も収録予定です。

最新シングル「感情リバーシブル」発売中

SAY-LA Web
http://www.say-la.jp/
SAY-LA twitter
https://twitter.com/SAY_LA_info
SAY-LA BLOG

https://ameblo.jp/saylanews
SAY-LA YouTubeチャンネル
https://www.youtube.com/channel/UCuj7LzynR7CWTLG6KPSUEeg

ーセットリストー
「MARIA」
「胸熱アンドロメダ」
「恋する君に恋してる」
「3000年に一度のハピネス」
「ごめんなさい」
「感情リバーシブル」
「パスタメドレー：初恋カルボナーラ」「ガチ恋ペペロンチーノ」「黒歴史イカスミパスタ」」
「YES,肯定ペンギン」
「愛呼吸」
「WE ARE ALL ONE」(SAY-LA Version)
「I LOVE YOU」
-ENCORE-
「こじらせ片想い」
「三年後の約束」
「BELIEVE」

Generated by ぷれりりプレスリリース
https://www.prerele.com